

V 日高振興局

1. みなべ町4Hクラブが県外研修を実施しました

みなべ町4Hクラブ（みなべ梅郷クラブ（橋本悠希会長））は、12月11日～13日にかけて宮崎県ならびに熊本県で研修を行った。

2015年12月に「みなべ・田辺の梅システム」が世界農業遺産に登録されたことから、他地域の取り組みを勉強するため、今回クラブ員10名で宮崎県ならびに熊本県の世界農業遺産認定地域を訪れた。

宮崎県高千穂町では、高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会事務局がある高千穂町役場の戸高玲子主任主事から、現地を案内いただきながら「高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム」の概要と取り組み内容を説明していただいた。

「高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム」は、「みなべ・田辺の梅システム」と同じ2015年に登録され、取り組みは始まったばかりとのことであった。棚田と総延長500kmにも及ぶ水路、椎茸栽培やお茶栽培、和牛生産等の農畜産業、様々な樹木をパッチワーク状に植栽している林業等、山間地であることから組み入れられた農業と林業が循環するシステムと説明を受けた。

熊本県阿蘇市では、阿蘇地域世界農業遺産推進協議会がある阿蘇地域振興局農業普及・振興課の山田隆課長補佐、石野慎祐技師、地元農家で牧野組合長でもある市原啓吉氏の3名からお話を伺った。「阿蘇の草原の維持と持続的農業」は、2013年に認定を受けている。阿蘇は他に類を見ない規模の草原を「野焼き・放牧・採草」といった管理で維持し、その草原に関連する農畜産業、生物多様性、景観、文化が保全されていると説明を受けた。

両地域とも、世界農業遺産として認定を受けた地域の農業システムの保全や地域内外への周知が課題とのことで、地域資源保全のためのボランティア募集や観光コースの設定、地域の子供への体験学習・次世代の人材育成など、様々な取り組みが行われていた。みなべ・田辺地域も同じような課題を抱えており、クラブ員は、取り組みの具体的内容や地域の農林業生産者が担っている役割について熱心に質問を行った。

今回の県外研修は、「梅システム」という農業遺産について、自分たちがどのような保全活動を行えばよいのかを考える機会を得る有意義な研修となった。



宮崎県での研修（高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム）